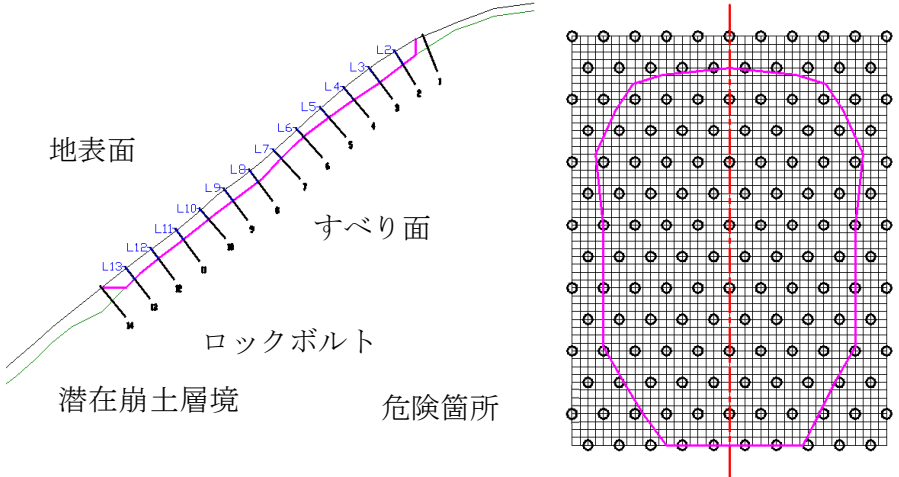
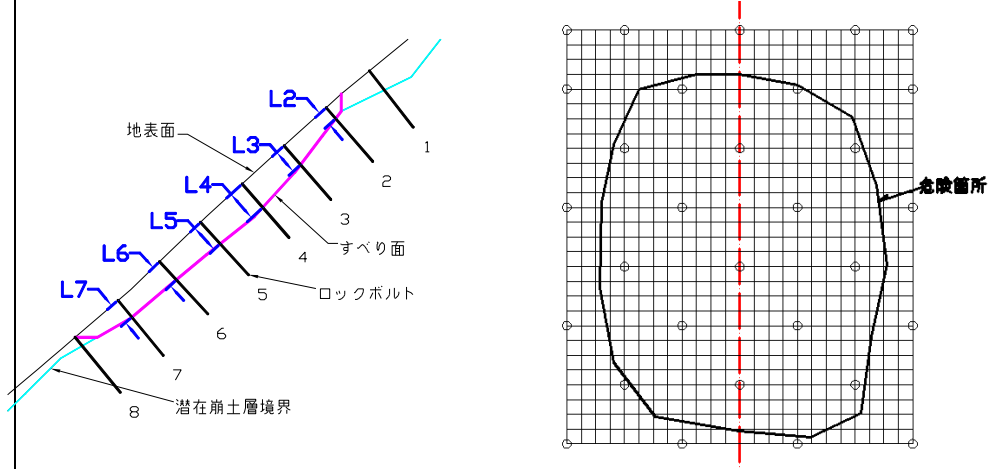


正	誤
<p>訂正箇所 1 (P40)</p> <p>■訂正内容: 対策工配置計画図において、潜在崩土層厚の考え方と平面配置 (ロックボルトの配置) を修正</p> <p>4 設計 4.2 常時設計 4.2.5 対策工の配置計画 (常時)</p>  <p>図 4.2.4 潜在崩土層厚の考え方と平面配置</p>	<p>4 設計 4.2 常時設計 4.2.5 対策工の配置計画 (常時)</p>  <p>図 4.2.4 潜在崩土層厚の考え方と平面配置</p>

正誤表（第2回 令和3年7月28日）

正

訂正箇所 2（P68）

■訂正内容：ロックボルト工-削孔工の写真管理項目のうち、ネット工の撮影頻度を訂正

5 施工
5.3 施工管理

表 5.3.2 写真管理項目

区分	項目	撮影項目	撮影時期、頻度	基準値
主材料	ロックボルト 圧圧板 キャップ ナット ネット、ワイヤー	寸法検査	形状寸法 材料入荷時、各品目毎1回	JISの規定に合致していること さび、油、泥等の付着がないこと。 有害なきずがないこと。
	材料	品質検査	配合確認 配合毎1回	JISの規定に合致していること
注入材	配合	コンシステンシー	試験状況 グラウト注入開始前(1回/日) ^{※3}	落下時間9~22sec以下 (P-ロード) ^{※5}
	強度	圧縮試験	試験体および試験状況 竣工開始前(1回) 試験体3本 1回/週 (供試体3本) ^{※4}	材料28日 24V/mm ² 以上 ^{※5}
	マーキング工	管理基準軸	配置間隔 全管理基準軸全数	縦断:4m±0.10m 横断:2m±0.10m
ネット工	ネット敷設工 ^{※1}	管理基準軸	配置間隔 全管理基準軸全数	縦断:4m±0.10m 横断:2m±0.10m
	ワイヤー敷設工 ^{※2}	管理基準軸	配置間隔 全管理基準軸全数	縦断:4m±0.10m 横断:2m±0.10m
	削孔工	削孔機の据付時の精度 打設角度 (スラント計測) 打設角度 (スラント定規)	削孔区毎の30%と全管理基準軸全数 削孔区毎の30%と全管理基準軸全数	縦断:4m±0.10m 横断:2m±0.10m ロッド等の傾き±0.5°以内 ^{※5}
ロックボルト工	削孔工	削孔径	ビット径検尺 竣工開始前(1回) 新規ビット取り付け時 ^{※4}	設計径以上 ^{※5}
		削孔長	削孔長検尺 削孔区毎の30%と全管理基準軸全数	設計長以上 ^{※5}
		完了	目視、出来形管理表 削孔区毎の30%と全管理基準軸全数	リターンの確認
	注入工	注入量	空袋検収 注入完了後	設計数量以上
	ロックボルト挿入工	深さ	挿入長 削孔区毎の30%と全管理基準軸全数	設計数量以上、ナット定着できること
	確認試験 ^{※3}	引張荷重	状況 削孔区毎本数の3%かつ最低試験本数3本以上	設計荷重により補強材が引き抜けないこと
	頭部処理工	ナット締付	状況	トルクレンチにて締付荷重管理
		防錆油充填 ^{※4}	状況	空気が入っていないこと(キャップ締付け時のリターンで確認)
		キャップ ^{※4}	状況	確実に締付けること

※1：ネット構造の場合
 ※2：ワイヤー構造の場合
 ※3：試験方法は、東・中・西日本高速道路株式会社：土工施工管理要領3-5-3 引抜き試験 に準じる。
 ※4：キャップ構造により異なる。
 ※5：基準値は、東・中・西日本高速道路株式会社：土工施工管理要領 3-5切土補強土工 に準じる。

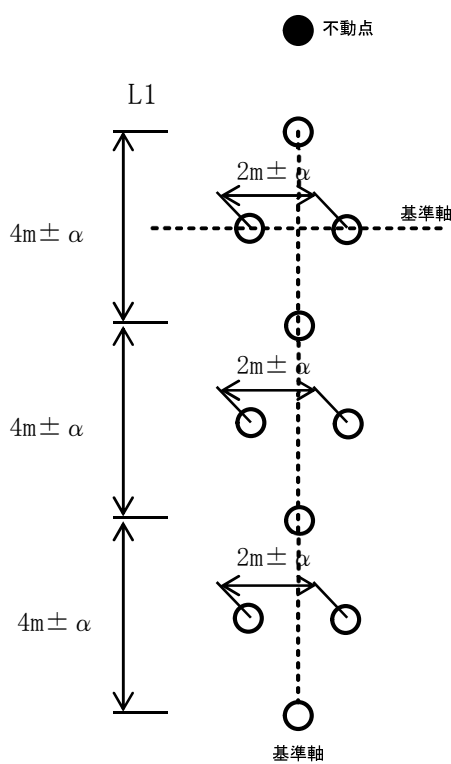
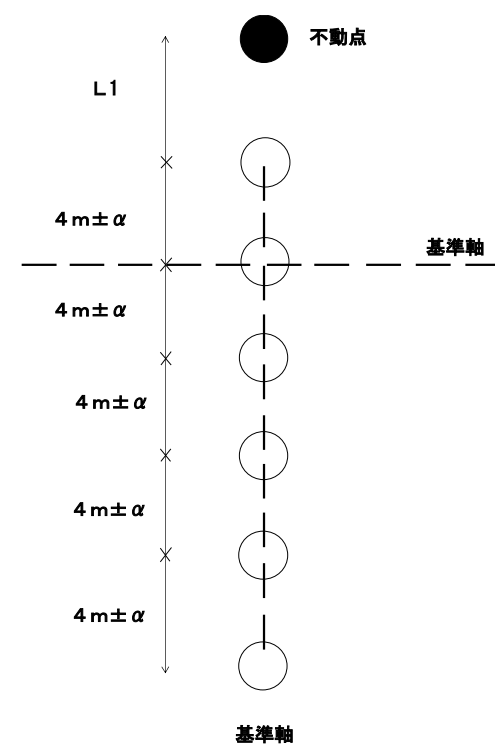
誤

5 施工
5.3 施工管理

表 5.3.2 写真管理項目

区分	項目	撮影項目	撮影時期、頻度	基準値
主材料	ロックボルト 圧圧板 キャップ ナット ネット、ワイヤー	寸法検査	形状寸法 材料入荷時、各品目毎1回	JISの規定に合致していること さび、油、泥等の付着がないこと。 有害なきずがないこと。
	材料	品質検査	配合確認 配合毎1回	JISの規定に合致していること
注入材	配合	コンシステンシー	試験状況 グラウト注入開始前(1回/日) ^{※3}	落下時間9~22sec以下 (P-ロード) ^{※5}
	強度	圧縮試験	試験体および試験状況 施工開始前(1回) 供試体3本 1回/週 (供試体3本) ^{※4}	材料28日 24V/mm ² 以上 ^{※5}
	マーキング工	管理基準軸	配置間隔 施工工区毎の30%と全管理基準軸全数	縦断:4m±0.10m 横断:2m±0.10m
ネット工	ネット敷設工 ^{※1}	管理基準軸	配置間隔 施工工区毎の30%と全管理基準軸全数	縦断:4m±0.10m 横断:2m±0.10m
	ワイヤー敷設工 ^{※2}	管理基準軸	配置間隔 施工工区毎の30%と全管理基準軸全数	縦断:4m±0.10m 横断:2m±0.10m
	削孔工	削孔機の据付時の精度 打設角度 (スケール計測) 打設角度 (スラント定規)	削孔区毎の30%と全管理基準軸全数 削孔区毎の30%と全管理基準軸全数	縦断:4m±0.10m 横断:2m±0.10m ロッド等の傾き±2.5°以内 ^{※5}
ロックボルト工	削孔工	削孔径	ビット径検尺 施工開始前(1回) 新規ビット取り付け時 ^{※4}	設計径以上 ^{※5}
		削孔長	削孔長検尺 削孔区毎の30%と全管理基準軸全数	設計長以上 ^{※5}
		完了	目視、出来形管理表 削孔区毎の30%と全管理基準軸全数	リターンの確認
	注入工	注入量	空袋検収 注入完了後	設計数量以上
	ロックボルト挿入工	深さ	挿入長 削孔区毎の30%と全管理基準軸全数	設計数量以上、ナット定着できること
	確認試験 ^{※3}	引張荷重	状況 削孔区毎本数の3%かつ最低試験本数3本以上	設計荷重により補強材が引き抜けないこと
	頭部処理工	ナット締付	状況	トルクレンチにて締付荷重管理
		防錆油充填 ^{※4}	状況	空気が入っていないこと(キャップ締付け時のリターンで確認)
		キャップ ^{※4}	状況	確実に締付けること

※1：ネット構造の場合
 ※2：ワイヤー構造の場合
 ※3：試験方法は、東・中・西日本高速道路株式会社：土工施工管理要領3-5-3 引抜き試験 に準じる。
 ※4：キャップ構造により異なる。
 ※5：基準値は、東・中・西日本高速道路株式会社：土工施工管理要領 3-5切土補強土工 に準じる。

正	誤
<p>訂正箇所 3 (P70)</p> <p>■訂正内容：管理基準軸の計測模式図を訂正</p> <p>5 施工 5.3 施工管理</p>  <p>図 5 3.1 管理基準軸の計測</p>	<p>5 施工 5.3 施工管理</p>  <p>図 5 3.1 管理基準軸の計測</p>